

富山大学
理工系女子学生
インタビューリレー
第4弾

工学部 電気電子工学コース

1年 鴨井 涼葉さん

知識がモノに生まれ変わる、
工学を学ぶ喜び

---富山大学へようこそ。工学部の電気電子工学コース（以下、電電）は、毎年とても女子学生が少なく、各学年、1名や2名といった年もありました。しかし今年度は、推薦に女子枠が設けられたこともあり、8名の入学生を迎えられました。それでも女性比率は低いですが、鴨井さんは、高校は普通科ご出身ということですよ。

鴨井： はい。だから男女比は半々のところから、一気に女子が少ない環境に来てしまいました。入学前からそのような状況は知っていたので、覚悟はしていましたが。友人ができるのかな、ということをととても不安に思っていました。

---実際に入ってみて、いかがですか？

鴨井： ロボコンプロジェクトに入っているおかげもあってか、話ができる相手はたくさんでき、その面の不安は今は解消されて、ほっとしています。それに、工学系の男子学生、先生もそうなのですが、ほんわかとした雰囲気です。優しい人が多い傾向がある気がします。授業はまだ工学専門のものは少ないですが、電子回路基礎の授業が楽しいです。

---なるほど。良かったです。

そんな電電を志望されたきっかけや理由は？

鴨井： まず、工学系の魅力として、「身につけた知識が身の回りのものに役立っている」というところがおもしろいなと思ったのが最初です。「てこの原理」ってありますよね。それって日常で当たり前に使っているハサミやトングに活かされている。ああ、授業で学んだことが、ここに使われているんだ、と感動したことがあって。

そして工学部の中でコースを選択する際には、自分は機械工学ではないな、といったように消去法で電電になりました（笑）

---工学部への進学を選んだうえで、富山大学に決めた理由は？

鴨井：立地と、興味のある研究室があるところの2点です。工学系の伊藤先生が、プラズマの研究をされていて、そちらの研究室にとても興味があります。ただ入るにはかなり好成績が必要で…がんばります。

---目指している研究が1年次からあるのはすごいです。そのきっかけはあるのですか？

鴨井：プラズマに興味があるんです。知識があるわけではないので、詳しく語れはしないんですが。液体・気体・固体という物質の三態がありますよね。でもそれに属さないプラズマという性質があると知って、「まだあるのか!」という驚きと、ではその、物質の第4の形態と呼ばれるプラズマを使って、ものづくりにおいていったい何ができるんだろうという興味がありますね。本当に何ができるんだろう…謎です。絶対研究室に入らないといけませんね（笑）がんばらねば！

---鴨井さん…とても謙虚な方であると同時に、胸の奥にとんでもなく熱いものを秘められてますね。研究肌ですか？

鴨井：研究肌なのでしょうか…研究はしたいですし、興味のあるものについて考えることは好きですね。

---もしかして、まだ大学1年生ですが、大学院進学について考えていらっしゃいますか？

鴨井：そうですね、修士課程には進みたいと、すでに親とも話していますね。理系は院までいって研究してなんぼかな、という考えもあります。博士に進むには経済的にまた考えなければいけませんけどね。それに私は、就職時の面接など、積極的にアピールするのが得意ではないので、少しでもアドバンテージをつけたいという思いもあります。

---大きなアドバンテージだと思います。女性が少ない環境の中で進学・研究するというだけでもひとつ抜きんでいますし、どうぞ工学分野に多様性をもたらす存在となってください。

鴨井：はい。プラズマで修士課程に行きたい！がんばります。

---理工系裾野拡大についてなのですが、学問に性別は関係ないと言われる中、ではなぜ工学に女性が少ないのか、鴨井さんのお考えを聞かせてください。

鴨井：学問に向き不向きは無いとしても、興味の向く方向において、一定の傾向はある可能性があると思うんです。男子は車に興味がある人が多い、海外や国際関係に興味を持つのは女性が多い、というのは、偏見かもしれませんが、あると思います。例えば理系でも生物分野には女性も多いですね。お花や植物、動物に興味を持つのは男性も女性も、ということなのかな、と。

---なるほど。となると、興味の方向性が違う（工学に対して興味のない）女性に「興味を持って！」というよりは、興味があるにも関わらず「女性が少ない分野だから」という理由でブロックがかからないようにしなければいけませんね。

鴨井さんが当事者としてこのように「来ても大丈夫」というメッセージを発信されることはとても意味があると思います。

鴨井：そういう意味で言えば、私は利用はしていないのですが、富山大学工学部の推薦入試には女子枠がありますよね。それを受験時に知って、個人的には、とても印象が良かったです。ちゃんと一定数の女性がいることが確約された安心感があったと言えますか。蓋をあけてみると女子学生は1人だけ！ということではなさそうだな、と。

---女子枠は賛否両論のアファーマティブ・アクションではあるのですが、そのような効果もあるというのは、実際に所属している女性ならではのご意見ですね。

鴨井：そうですね。それに、「私、入っていいんだ」と思えましたよ。女子枠があることによって、富山大学が、女性をウェルカムモードで受け入れている姿勢を示してくれていると捉えられたので。

---なるほど。確かにそれはそうですね。

鴨井：それに、こういった形（インタビュー記事）などで、女性も活躍している分野であることが発信されていますが、それがもっと世の中の目に触れたら良いのかなと思います。私の調べ方が悪かったのですが、私は実際に入ってみるまで、けっこう女性がいるものなのだ、と知らないまま、不安だけ抱えていたので…来てみると、大丈夫でしたけどね。

---貴重なご意見をありがとうございます。インタビュー記事が多くの人目に触れ、鴨井さんが発信してくださったメッセージを届けられるように、がんばりますね！プラズマ研究、がんばってください！

鴨井：やりたい研究ができるように、良い成績を取ることをがんばります！！



学問に性差は関係ありません。
自分の特性ややりたいことを活かした選択ができる世の中を、皆で創っていきましょう。
鴨井さま、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。



富山大学 ダイバーシティ推進センター

〒930-8555

富山県富山市五福3190 富山大学学生支援・地域連携交流プラザ2F

Tel. 076-445-6239 E-mail : smart@ctg.u-toyama.ac.jp

